

グループホーム 銀杏の木

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職場内研修にて改めて、理念についての勉強会を開き理念の意味を理解し、共有していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		顔馴染みの人を増やし、更に交流を深めていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		小学校との交流を深める為に、他の行事の参加も実施していく。

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の委員で民生委員をされている人からの相談、悩み、困っている事を話し合い、事業所で出来ることを提示している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義については、職場内研修にて勉強会を行っている。		自己評価表の記入については、全職員に割り振りし全員で取り組む働きかけをしている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、これまでより内容を充実させる為、各委員の方々に必ず発言してもらう等、活発な会議を目指し取り込める内容については、サービスに活かすようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	八女地区のグループホーム部会の研修の回数が減ってはいるものの、役場等へ出向く事が増え、相談等の機会は増えてきている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護については、外部より専門の講師を招いて全職員受講している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前年度も、虐待防止の研修を行っているが、今年も職場研修を予定しており、さらに理解徹底を図っていく取組みをしている。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約については、十分な説明を行い理解、納得を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見、不満、苦情については、その都度傾聴し、相談に応じている。</p> <p>職員に言いつらい内容については家族に訴えている利用者もおられる。</p>		<p>何でも言い合える為の関係作りを築き、意見箱の活用もすすめていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会、電話連絡時にて利用者の状況、状態、金銭管理については、随時報告している。</p> <p>広報誌にも日々の暮らしぶりを掲載し、毎日の様子を記録したものを定期的に送っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの相談等はあるが、意見、不満、苦情については殆ど聞かれる事も無く、意見箱も活用されていない。</p>		<p>家族が気軽に意見や苦情が言える関係作りを築き、意見箱の活用もすすめていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回、スタッフ会議を開催し、意見交換や提案を聞く機会を設け反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化等に対し、柔軟な対応が出来る為に勤務の調整を行い職員の確保に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニット共、管理者、職員の変動も無く馴染みの関係は保たれている。</p>		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては性別、年齢、経験、未経験に関わらず、本人のやる気を重視して個々の能力を發揮してもらっている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>昨年は、外部より講師を招き権利擁護の研修会を開催し、全職員が受講している。</p>		<p>職場内研修にてさらに人権、教育、啓発活動に取り組んでいく。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については、積極的に参加させるようしている。研修参加者より全体会議にて発表をしてもらっている。</p>		<p>職場内研修は、毎月計画を立て実施している。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>八女地区のグループホーム研修会には必ず参加するようにし、交流の機会を増やし情報交換等でサービスの向上が図れる様取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日中は精神的にリラックスできるような軽音楽を全館に流している。ストレス軽減については、月1回の全体会議にて自由に発言できる雰囲気作りに努めている。</p>		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年、自己評価を実施し、これまでの成果課題、これからの目標を明確にし、管理者との面接にてさらに認識を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接にて、本人の要望、意志を確認しホーム内の見学等をして頂き、納得した上で不安のない入所に繋げている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の相談には、親身になって応じ十分な説明を行いホーム内の見学も含め納得して頂くための対応をしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設で対応できないケースでも相談に乗り、他のサービス利用の紹介等を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心できる場所である事を説明し、除々に馴染める環境、関係作りに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る範囲で役割を持ってもらい、寄り添い、支え合う関係作りに取り組んでいる。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		疎遠になっている家族については、広報誌で近況を知らせたり、毎日の様子を記録した物を郵送し、関係作りを築くようにしている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の要望に即対応し、連絡を取るようになっている。 面会時は、家族との有効な時間を過ごせる為の支援をしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係作りの為に場所、時間を有効に使って頂き関係が継続していくよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が日々支え合いながらよい関係を築いていく為に、トラブルを未然に防ぎ、理解し合って快適に過ごせる様取り組んでいる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方への初盆のお参りは毎回欠かさないで実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを大切にし、思いや、意向を把握し、本人主体の生活が出来る様支援している。		家族への協力を仰ぎ、情報収集の為の働きかけを行っていきと共にセンター方式を活用し、更に利用者の思いや、意向を掘り下げていく為の取り組みを行っている。

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で生活歴等の把握に努め、満足のいくサービスになっているか評価しながら課題を見出し、改善できる為の取り組みを行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の状態状況については、ケア記録、申し送り等で各職員が確認し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実践可能な介護計画を作成し、短期目標を具体化し個別支援を重視した内容になっている。 センター方式のツールを少しずつ増やし、活用していく。		看護師との連携によって医療情報をさらに取り込み、医療情報を活かした介護計画を作成していく。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、評価、見直しを行っている。 状態変化が生じた場合は、その都度新たな介護計画を作成している。		1ヶ月後の評価、見直しに移行していく。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録についての研修を受講した職員も増え、勉強会も実施しており、記録の重要性を理解した記録となっていて、情報を共有し実践に結びついている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じてサービスを提供しているが、地域へ向けての多機能性はまだ活かされていない。		運営推進会議の委員への働きかけから始め、地域に多機能性が活かされて浸透していく様取組んでいく。

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の清掃活動、文化祭等へ参加させて頂き、地域住民の方々とのコミュニケーションを図ることでグループホームの理解と協力を得る為の取り組みをしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業者、他ケアマネジャーとは来訪時又は電話にて、情報交換を行っている。 必要に応じて、他のサービス利用にもつなげている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は、実施できていない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて定期的に、かかりつけ医の受診を実施している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状の変化が顕著に現れた方については、受診、治療を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師による日常の健康管理、医療活用の支援は行われている。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時の情報交換、退院に向けての相談を行い、早期に退院が出来る様努めている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化対応、終末期ケア指針の説明を行い、看取り介護についての同意を得ている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	事業所の「できること、できないこと」について見極め、医療機関と相談しながら今後の変化への対応を検討している。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	家族と十分に話し合い、ダメージについての説明を行い、本人へのリロケーションダメージが最小限になる為の働きかけを行っている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	人生の大先輩として敬い、一人ひとりに合わせた言葉かけ、対応を行っている。 記録、個人情報の管理は保管場所を決め確保できている。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が希望を表せるように働きかけたり、各自の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定が出来る様に支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の考えやペースを大切にして、毎日を自由に過ごしてもらえる様に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する服を着ていただいたり、家族の協力を得て、おしゃれが出来る様に支援をしている。		本人、家族、職員が協力し合って、身だしなみ、お洒落が出来る様に支援をしていく。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で、お手伝いをしてもらいながら職員と一緒に食事をしている。		利用者が、一緒に参加出来る状況を増やしていく。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望する飲み物、おやつ等を状況に合わせて、毎日日替わりで出している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗、オムツの使用を減らす為に、適度な声かけをして気持ち良く排泄出来る様に支援をしている。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせ、個別に入浴出来る様支援している。 入浴時間、回数など希望に合わせてくつろいだ入浴が出来る様に支援している。		入浴拒否の要因を更にチェックし考え、改善点を見つけていく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分の居室が、安心して落ち着ける場所となっており安眠、休息は出来ている。 一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、声かけを行うなどして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩やゲーム、歌などの活動に力を入れており一人ひとりの能力、意欲に合わせた役割り、楽しみごとの支援を行っている。		役割り、楽しみごとが増える様に、新しい活動内容を考えていく。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆ど施設でしているが、本人の希望に応じて金銭のやりとりが出来る様にしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、気温を考えながら散歩を日課としている。 その日の参加者の体調、意志を考慮しながらコースを判断し、無理の無いように支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節での花見などドライブを兼ねて、遠出を実施している。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時は、電話だけでなく手紙のやりとりが出来る様支援している。 これまでは、電話のみの要望となっており職員が伝言を伝える事もある。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に訪問出来る様に玄関を開放しており、面会カードに記入してもらう事で、職員が交友関係を把握し対応を行っている。状況に応じて、居室やリビングで過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全ての職員がしっかりと認識し身体拘束のないケアを実施している。		職場内研修で身体拘束の勉強会を開催する予定があり、認識を更に深めていく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関にセンサーを設置して安全確認を行っている。事務所でも入所者の行動が、察知出来る様にしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が様々な業務を行いながら常に、利用者の行動を把握し見守りを行っている。 外出届、外泊届の提出をしてもらうことで所在を明らかにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミ、針等は日常的に使用しているが、使用しない時は保管場所にきちんと保管するようにしている。		異食行為があった為、消毒液、石鹸などは、利用者の目の届かない場所に置いている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合は、組織全体の課題として促え、再発防止に向け対応、改善策を話し合いヒヤリハット報告書も取り入れ今後に活かせる様取り組んでいる。		更に、周知徹底を行っていく。

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の方法については、掲示板にて掲示している。緊急時の対応マニュアルは、職員の分かる場所に常時設置している。		救急救命法の研修を、毎年職員全員が受講し、訓練を受けている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的に防火訓練を行っている。		運営推進会議の委員に参加して頂き、地域の方々への参加を広げていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対応については、家族に状況を説明し常に話し合っていくようにしている。 ヒヤリハット事故報告の検討会にて更に、意識を高めるよう取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者、一人ひとりの体調の変化や異常のサインを早期に発見できるよう、注意をし情報を共有している。 変化やサインを記録にも残している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、服薬支援を行っている。 心身上変化が出た場合は、家族、医師に症状を伝え見直してもらっている。		薬の副作用等で分からない物は、医師に相談する。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンを知り、チェックを行い水分量、運動量を増やし服薬調整にて便秘予防に努めている。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりに応じた対応を行い、清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者より、栄養バランス、カロリーを計算された食材が届けられている。 利用者に合わせ量、食事形態を工夫し、水分摂取量の確保できる様支援している。又、畑で採れた新鮮野菜が食卓に乗る事もある。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防については、全職員研修を受け、職場内研修でも勉強会を開き、各自が認識を深めている。 ノロウイルス発生時の汚物処理ツールBOXも常備している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、食器乾燥機使用にて乾燥を行っている。 食材は、食費期限の確認をし、新鮮で安全な物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場が広く出入りしやすくなっている。 玄関前には、花を植えベンチを置き誰でもくつろげる様にしている。		駐車場を近隣の人が気軽に使用することが出来る様看板を立てたり、広報誌にて知らせ、事業所を地域の人に開放する。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには観葉植物などを置き、カレンダーも手づくりの物を使用し、ボードには季節感のあるレイアウトを施している。 音や光は不快にならない様配慮している。		

グループホーム 銀杏の木

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、4人がけのテーブルを3ヶ所に設置し、気のあった利用者同士が、席を共にしている。 ソファも自由に使用され居室で仲良く過ごされている事もある。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、入所後も家族にお願いして馴染みの物を持ち込んでいただくようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は細めに行い、利用者に合わせた温度調節も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる場所に手すりを設置し、安全に動けるよう、危険につながるものを置かないよう工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に、それぞれの表札をつけており、個人の部屋が分かるようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに日当たりも良く、ベンチ、椅子も置いてあり各ユニットからいつでも行ける様にしている。 花を植えたり、畑で野菜作りも行っている。		

グループホーム 銀杏の木

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 銀杏の木

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・散歩のゴミ、空き缶拾いの継続が出来ている。
- ・嚙下体操を新たに含めた、毎日の体操が実施できている。